

釜ヶ崎講座ニュース NO.65

2022年4月27日

釜ヶ崎講座

大阪市港郵便局私書箱40号

大阪市西成区萩之茶屋1-9-7 釜ヶ崎日雇労働組合気付

事務局 090-2063-7704

Mail kamakouza@cwo2.bai.ne.jp

<http://cwoweb2.bai.ne.jp/kamakouza>

郵便振替 00940-1-132778

会員、読者のみなさん、釜ヶ崎講座です。ご無沙汰しております。日頃は釜ヶ崎講座の活動へのご支援、ご理解に感謝申し上げます。またカンパもしていただき、ありがとうございました。

今回の釜ヶ崎講座ニュースは講座の新企画「5・25仕事づくり・街づくりツアー」開催の予告をメインにしなが、最近の釜ヶ崎の状況にあわせた講座の取り組みを紹介していきたいと考えます。最後まで宜しくお願いします。

1. 「釜ヶ崎講座・仕事づくり・街づくりツアー」開催します！

■日程：2022年5月25日（水）

■時間：午後1：30～4：30（受付1時から）

※出発は、午後1：30（時間厳守でお願いします）

■集合場所：釜ヶ崎日雇労働組合事務所前

- ・案内人：山田実さん（NPO法人・釜ヶ崎支援機構理事長）
- ・案内人：穴澤一良さん（NPO法人・バリアフリーサービスつばさ代表理事）
- ・案内人：小林大吾さん（NPO法人・釜ヶ崎支援機構相談員）

■参加費 500円

会員・読者のみなさん、今回新たな企画としまして「仕事づくり・街づくりツアー」をいたします。講座は以前から“平日の釜ヶ崎”のツアーの実現を考えたことがありましたが、この間「労働福祉センター建て替え問題」を契機とした労働者・住民のための使い勝手のいいセンターとは？という話し合いが高まる中—それは安心して働き暮らせるために

機能するセンターだろうーというシンプルな答えが返ってくるわけです。もちろん今日まで釜のそれぞれの運動団体・組織はそれを目指して取り組んできた経緯があります。そこで平日のセンターや職安、また旧南職安が所在した「お仕事支援センター」等の施設や生活の寄り場へおもむき、仕事と支援・ケアを通じて人との結びつきを重視する釜ヶ崎を勉強していきたいと思います。生活保護が生きていくための命綱と言われながらも、なぜか働いて生きたいという労働者が釜では多い理由、この問題の背景にある反失業闘争の歴史や事情などを前半は現地を歩きながら山田実さんに解説してもらいます。

また山王の路地にある「サービスハブ西成」へおもむき、小林大吾さんがこの間取り組んできた若者への支援をベースにした様々な人とのかかわりを聞かせてもらい、困窮に苦しむ人たちへの支援の行先・抱負を語ってもらうことになっています。

そして穴沢一良さんが仕事をされるバリアフリー・つばさでは、障がいなど様々なハンディと向き合う人への支援をベースにしながら、当事者が生きづらさの克服のためには就労や生活に関して何を求めて活動すればいいのか、今後、新センター窓口に求められる役割や就労継続支援施設の見学もはさんで、お話ししてもらう予定です。

みなさんの積極的なご参加を待っております。

2. 第53回釜ヶ崎メーデーが5月1日開催されます

～5月1日、朝7時30分より三角公園で始まります。～

万国の労働者団結せよ！労働者もそうでない人も三角公園にあつまれ！
一來る人は拒まず釜ヶ崎労働者と連帯して熱い釜ヶ崎の雰囲気を楽しもう！そして劣悪な労働環境（賃金）・社会に怒り、団結して我々の生活打ち立てよう！

みなさん！2022年5月1日、第53回釜ヶ崎メーデーが朝7時30分より三角公園ではじまります。

釜ヶ崎労働者は7～80年代当時の「正規・常用」といわれる労働者からも日雇というだけで差別される中でも、桁落ち賃金と暴力支配に反撃、赤旗を守り抜いてきました。その過程の中で釜ヶ崎メーデーを53回積み上げてきました。戦争と差別、貧困と迫害に抗して闘う全世界の労働者が声を上げ、被抑圧民衆と連帯する日、この日がメーデーです。

今はなんといってもウクライナへのロシア侵攻をやめさせなければなりません。そして沖縄・辺野古新基地工事を推進し軍事物資を送る岸田政権を糾弾し、やめさす行動を広げなければなりません。この機に乗じて反中国と台湾有事を扇動し「核共有」や沖縄・南西諸島にミサイル配備をと叫ぶ一部日本の政治家にストップをかけなければなりません。

皆さん、5月1日、三角公園に集まりましょう！

3. これまでの釜ヶ崎講座の取り組みの紹介

① 第52回釜ヶ崎越冬闘争闘われる、

講座も連帯して行動、新春釜ヶ崎ツアーおこなう。

昨年12月28日の越冬突入集会から1月4日「地域内集会・デモ」の期間、実行委員会に結集する各団体・仲間の創意と力によって第52回越冬闘争がうちぬかれました。

連続するコロナ禍での越冬闘争となりましたが「仲間内の団結で1人の餓死、凍死者を出さな」を合言葉に釜ヶ崎の仲間の命を守り抜くことができました。

今年も大阪市が行う北シェルターをベースとした「臨時宿泊所」には291名の人の利用があり、釜周辺には60名の人が路上で正月を迎えざるを得ない状況がありました。今回、実行委員会は野営本部に寝場所を求めてきた人に生活相談を対置、「臨泊」への押し込みを図りながらも、この時期、並行して困窮者相談を行う「緊急サポートプロジェクト」とも連携をはかり、簡易宿泊所への入所も実現していきました。

また新年1月2日には「センター建て替え問題新春討論会」が開かれました。まずセンターは建て替えが必要なこと、釜で働き暮らす人、生活の立て直しを求め、たどり着く人の要望をみたくセンターであることが確認され、センターは売り渡されるといったデマにたいしても、住民のための新センター建設という意味をあらためて促しました。

そして通例となっている新年1月4日提出の府・市への「要望書」では特別清掃事業で働く人の賃金の上昇を求めました。1994年特掃実現以来、据え置かれている賃金のアップを求めて、従来からの「月13日以上働く」要求とともに「働いて暮らせる仕組みづくり」の内実を求めるものとなっています。

～釜ヶ崎講座は31日「連帯行動」、新年3日には「釜ツアー」～

講座は越冬期間中の31日、人民パトロール「なんば方面情宣」にあわせて「連帯行動」を企画、5名で行動。いつものように釜日労事務所に集まって今年の越冬の様子など語り合い、20時前頃には「人パト」出発地の三角公園へ。待ち受けていた釜日労の佐々木さんが越冬をとりまく状況を語ってくれました。人パト部隊、総勢70名でなんば・戎橋へくりだしました。戎橋はご承知の方も多いと思いますが、1995年10月18日の朝、藤本彰男さん（当時63歳）が3人の若者に投げ殺された場所です。生活苦の中、日々の段ボール集めで疲れて休んでいた藤本さんを、若者がからかい、川へ突き落したまま逃げ去るという許せない事件でした。

その現場へ到着すると全員で黙とう、このような事件が起こらないための方策の実現にむけて決意を新たにしました。大みそかのこの日、行きかう若者も多いこの戎橋の上で、ホームレスや失業、困窮は誰もなりたくてなるものではないこと、行倒れて困っている人

を見かけたら、越冬本部まで連絡を！と情宣を繰り返しました。その後、釜ヶ崎へ帰り、「医療パトロール」行動へ合流、31日の行動を終了していきました。この日、来てくださったみなさん、ご苦労さんでした。

1月3日は、恒例の「新春釜ヶ崎ツアー」が午後1時にスタート。今年も水野阿修羅さんに水先案内人として先導をつとめてもらいました。この日は35名に達する参加で完成まじかの星野リゾートホテルを手始めに、近年増加するベトナム関係のレストラン等を回りながら、言語や教育、多様な課題をかかえる外国人共生の問題もこの釜ヶ崎でも例外ではないことが思い起こされました。名古屋入管施設におけるスリランカ人女性に対する虐待死事件は氷山の一角でしかありません。外国人排除と人権無視が強い日本社会、協働・共生を取り組みの1つとする釜講座としましても更なる発展と行動が求められていると感じました。また水野さんの話題の中にもありましたが、東京とは違って、釜ヶ崎には派遣をつかさどる会社所有の单身寮が多いということ。快適な生活環境をフレーズにしながら労働力を確保する釜ヶ崎。このことから「日雇い労働」が無くならないと今回も水野さんは指摘していました。全国的には「白手帳」の激減に見るように日雇労働者の減少が続く中、資本主義社会が今後も日雇い労働を必要としていくのか、社会の労働環境の変化の中、改めて考えさせられた今回のツアーでした。参加されたみなさん、大変ご苦労さまでした。

② 第6回食料配布&相談会があり80名が来場、16名が相談ブースへ

新型コロナ・住まいとくらし緊急サポートプロジェクト OSAKA の主催で

さる3月26日、西成区民センターを会場にして、“1人で悩まず、まずは相談を”をかかげて「第6回食料配布&相談会」が行われました。2020年初頭より顕在化した新型コロナによる生活苦・失業がジワリ進行していく中、西成・釜ヶ崎、大坂近在で取り組みを続ける若い人たちが中心となって、「相談会」活動が継続されてきました。

これまでも相談会開催では事前の打ち合わせを入念にするなか、社会、地域の変化を注視しながらも誰が困り果て、どのような支援がマッチングできるかの話し合いが続けられています。外国人やシングルマザーなど支援の中心はどこかといった議論がされて活動が続いています。物資は食料に限らず、子供用紙おむつ等もこの日は配布されました。

この6回目の相談会には行政・社会福祉協を含め約30名以上のスタッフが集い、整然と役割分担がこなされ、聞き取り・物資配布とジャンル別の個別相談が行われました。

プロジェクト OSAKA は後日の反省会の話し合いの中で、継続した支援の続行を確認、5月3・4・5日のG・W期間と6・8・10月の第4土曜日に相談会実施の決定をしています。

このような若い人の支援活動に老・壮の支援者も合流することで今後も斬新で社会的イ

ンパクトを備えた活動が広がり、助け合い社会の定着に大きく寄与できる展望の芽が膨らんでいると感じました。

釜ヶ崎一帯では野宿労働者など社会的弱者に向けての物資支援、困窮問題の相談、あるいはワクチン接種や非課税世帯給付金での「机だし」といわれる相談が街角で実施されていて、お互いが助け合える取り組みが掛け声倒れに終わらずに進められています。こうした中での支援・被支援を問わず、お互い様という意識と行動の発揚がはかれればと思う次第です。

◆釜ヶ崎講座はこれまで皆様のカンパで活動が継続されてきました。
あらためて日頃のご厚意に感謝いたします。有難うございます。
今回も「振込用紙」を同封させてもらっております。
皆様のご厚志を宜しくお願いいたします。

釜ヶ崎講座